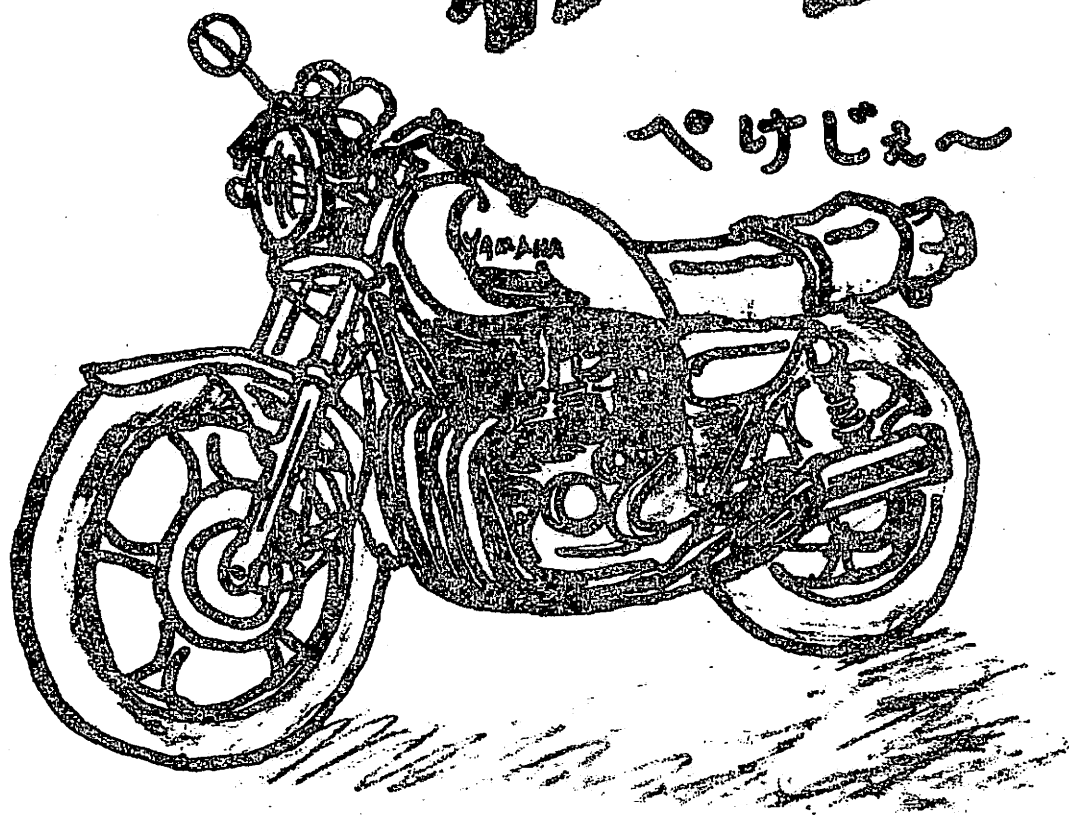


秋山1991

個人山行の
報告



Shinshu Univ.
Alpine Club



秋山・個人山行の報告

～もくじ～

- ・ 蝶ヶ岳～燕 縦走 2
- ・ 明星山 P6南壁 左岩稜 2～3
- ・ 甲斐駒赤石沢奥壁 左ルンゼ 3
- ・ 乗鞍岳 4
- ・ 大滝山・蝶ヶ岳 4
- ・ 奥鐘山西壁・中央ルンゼ 5
- ・ 黒部川・下, 3つか 6
- ・ 丸山東壁・2ルンゼ 6
- ・ 明星山 P6南壁 7～8
- ・ 作文コーナー 9～12

蝶ヶ岳～燕 縦走 L. 安保, 松澤, 籠谷

- 9/20 上高地へ入る
- 9/21 6:10 ◎ 上高地
 7:35 ① 徳沢 水をくんでいく
 11:15 ① 長堀山頂
 12:15 ① 蝶ヶ岳ヒュッテ TS
- 9/22 6:30 ○ 蝶ヶ岳ヒュッテ
 6:45 ○ 蝶ヶ岳頂
 9:40 ○ 常念頂
 11:05 ① 常念小屋 - 1俣谷を10分程下りて水をくむ
 13:10 ① 横通岳
 14:00 ① 東天井岳
 15:10 ① 大天荘 TS
- 9/23 6:10 ○ TS 発
 6:30 ○ 大天井頂
 8:25 ○ ゲエロ岩
 8:50 ○ 燕山荘
 12:20 ○ 中房温泉・温泉の入浴代は1人400円

比較的アッパダウンが少なく楽なコースで、天気が良ければ展望もすばらしい。(マンボ)

明星山P6南壁左岩稜

L 田尻 吉井 (スキー山岳部卒)

- 9/21 (土) T.S. 設置
- 9/22 (日) 4:30 起床
 5:30 ◎ 出発
 9:00 まて 水道管を渡りて取りつを探索したが
 ヤブ深く、道がわからないので引き返して
 渡沢おこしにする。
 10:00 ① 渡沢了 (ハッ位もった)
 10:30 ① 松ノ木テラスからケンスイおこしにし
 取りつを開始。吉井からリト
- 1p 20m 2p 25m 3p 35m 人工のルート 4p 15m.
 5p 35m

13:30 ~ 14:30まで 田尻が55に上に行くが、
 むすかしくなってきたので 吉井が13と3が松の木で
 とおかり、ケニスイを開始 (A.40)
 1p 20m 2p 20m 3p 40m 4p 30m で取り
 つ着 16:00 〇

上の方が脆くは、てくるが、まきりした登ハにたつた。吉井クニは、手続
 がむすかしくて「もうS.A.C.と行く気になれぬ」とボヤいてました。
 (田尻)

甲斐駒 赤石沢奥壁 左1のせり橋に 登

9/22 9:50 土岐沢山 〇
 11:53 甲斐駒 〇
 1:15 甲斐駒 〇
 2:10 八景目 BC 〇

9/23 4:40 BC 登 〇
 5:00 取付 〇
 5:30 登ルを開始3分 藤 〇
 6:00 登ルを開始 〇
 10ピッチ
 2:30 登了 〇
 3:05 異手戻状 〇
 3:30 BC
 4:20 BC 登
 9:50 取付

ルート中に水三ヶ所あり 木リクはいるが
 善後枝に出る前 10ヶ所の岩を20m
 9PAはIIとIIIのV<30あり (出10)

乗鞍岳. L.河西. 田中. 高橋. 三木. 牧野. 豊田. 下田. 高橋雄治. 竹前. 杉原. 平田

9/22 ○ 9:30 白骨温泉 ———— ○ 13:40 十石小屋 (常念小屋)

9/23 ○ 9:00 小屋敷 ———— ○ 12:30 乗鞍スカイライン ————

——— ○ 14:00 頂上 ———— ○ 15:00 車で回収してもらい下山

雄治さんはコリスモヤキイチゴのジャムづくりの材料あつめにいそいそでいた。
(河内)

大滝山・蝶ヶ岳

9月28・29日 L. 神山

27日 小梨平 T.S. ◎ → ④ 19号

28日 10:10 T.S. 発 ◎
10:40 明神 ◎
12:30 徳本峠 T.S. ◎

29日 5:05 T.S. 発 ○
5:55 明神見晴 ○
6:45 槍見台 ○
9:00 大滝山頂 ○
10:30 蝶ヶ岳ヒッテ ○
11:30 蝶ヶ岳山頂 ○
13:00 横尾 ○
16:00 小梨平 ○

[感想]

徳本から大滝まではずうっと
樹林帯の道は比較的平坦に
か。印がフツフツわかれぬ。
ただしこの時は台風通過直後
だった為倒木があちこちにあり
朝早く小梨平も出れば一日で
十分行ける。

単独行と云ふことは、
行動中は全然平気で「ヤ」
の長い夜。しかも強風が吹き荒
れた。たいたんかあると淋しい。
でもまた行こうと思う。

奥鐘山西壁 中央ルンゼ

山 植垣 小久保

10/10 11:30 ◎ 樺平

12:30 ◎ 西壁基部岩小屋

岩小屋までは、ヘソまでの漕ぎを何度も繰り返す。西壁の右のほうのルートはチロリアンブリッジを張れるが、中央ルンゼには取り付けない。対岸には快適そうな岩小屋があったが、朝夕の漕ぎは辛いのて、西壁側の岩かげでビバーク。

10/11 ◎ 沈没

奥鐘山を經由してババ谷温泉に降りる予定だったがあきらめ、明日晴れたら屋根付きバンドまでとする。

10/12 7:30 ◎ 登攀開始

10:30 ○ 下降開始) 7P

11:50 岩小屋) 懸垂5P

12:30 ↓ 麓

13:30 ↓ 樺平

晴れ間が見えたので登り始めるが、雨後のフッシュ帯で時間を食い、8P目に変なところに突っ込んでしまったので屋根付きバンドまで行けそうになく、下降とした。途中ギルがクサビの切れ目には引かかり、登り返す。奥鐘山は屏風や剣などに比べ、余計なピンがそんなに無く、おもしろい。アプロ-キも楽しい。

松尾岳

山 植垣 河西 小久保 浦山 牧野 かが谷 松澤 神山 豊田 (087)

10/19 9:30 ○ 千畳敷

13:15 ↓ 松尾岳直下水場

13:45 ↓ 避難小屋

夜遅くまで飲んでいたら、21:30ころコタロ-さん登場。さらに飲み続けた。

10/20 10:30 ○ 避難小屋

13:30 ↓ ヒキオ橋

14:00 ↓ 駐車場

黒部川下, 廊下

山長谷川, 笹森, 伴野, 段保, 田中

10/26 7:55 黒部ダム - 9:00 内蔵助谷出合 - 11:00 別山末出合 - 12:20 十字峽 - 14:10 仙人谷 - 15:00 阿曾原温泉 TS

10/27 7:40 TS - 9:00 折尾谷出合 - 11:30 今平

登山道が整備されていけば楽しい温泉ツアーがでるでしょう。でも登山道が荒れているところやらしいでしょう。入山前に関西電力に電話をいれれば状況を聞かせたい。でも水平歩道では長をぬいては行くと死にます。

山長谷川

丸山 東壁 2ルンゼ

10月18 ~ 19 橋口 葦江

10/18 2:50 黒部ダム ①
3:45 丸山北壁 BC ①
その後取付を確定しに行く

10/19 5:30 BC登り ①
5:45 取付 ①
丸山の100mほどがぬれて悪いので糸を投げて取付くが30mほどの距離に丸山に落ちたので

下降

7:00 丸山登山開始 ①
9:30 橋口へ落 ①
(30mほどはルート④40mほど)
10:20 下降開始 2ルンゼ ①
11:00 取付 ①
12:00 BC ①
12:45 BC登り ①
2:10 黒部ダム

あ〜

明星山P6南壁

11/2 L 河西、安保、松澤

① 6:15 TS ——— ① 6:30 左岩稜ルート取付

松澤が1日目V-E登山可あり可。松澤は若太郎さんパーティへ合流。
左岩稜は天系ばかり

① 12:50 大岩 他パーティと合流下山

(河西)

左フェース

11/2 L 植垣 神山
7:30 ① 登攀開始。) 10 P.
13:30 ↓ 大岩
16:00 ↓ B.C.

上部のブッシュ帯に入るとすぐに真横に進み、左岩稜に出た途中3ピッチは神山リード。

11/2

左岩稜 L コーダーさん、田中、松澤

8:10 ① 取りつき

1p目 20m / 2p目 20m / 3p目 35m

4p目 30m / 5p目 25m → 3p目 大岩

13:40 ① 大岩

15:30 ① B.C 着

作文

長谷川(哲)流の山への誘い。

僕が山を始めたとき、かけは、中学二年の時の担任が、日本大学山岳部の遠征で(マリンチ)に挑んだことだった。彼はは、まり言、て変わった。身なり風体見てくにははま、たく気もかけず、家から学校までサグザックを背負、て走、てくると、ゴールのシャワーを浴びてニャンプで頭を洗、ていた。そんな姿に、筆者に尽くし難い、強烈な印象を受け、高校では、またく迷、れず、ワゲルに入、った。

幸か不幸か、我が母校のワゲルは、その「ワゲル」という軟派な響きとは裏腹に、決して楽とは言、えなかつた。毎日のトレーニングは、は、まり言、ておろろろしくて嫌、だった、せがて僕は部長にな、った。その時、いつも想、たことは、ま、と僕、は野球部よりも凄、いぐらいなんだと自分に言、いませ、ることだった。そう、勝手に思い込んでいつもほ、りま、っていた。

そして、なぜか僕は浪人もせず、信州大学に入学した。またしても、なぜか山岳会に入、った。どうして僕は山に行くのだらう。僕は自然が好きだけれど、も、と、と、楽な接し方もある。溪流で釣りをするの、も、いいし、又、ハイクでも場所を選、べば、け、こ、う、いい。

オートキャンプも楽しそうだ。なにも、ただだけの山岳会にどうして...。
一本、僕は何か立ち立ってみたい。どうも中学時代の
強烈なあの印象が忘れられない。あのスライドを見せてもらったとき、
ヒマラヤの土産話も聞いた時の、何か新鮮で、乾いた砂に
水がすい寄せられるような感動にせまられていた。
下界には、深山楽しそうなおもてなしがあるけど、そんなのも、吹き飛ばさ
してしまおう。もう一度、あの強烈な印象に出会いたいという気持ちで
僕を山岳会に向かわせる理由なのだ。
(おしまい)

こんにちは！ アンボです。このあいだ行われたOB会について書きます。
ボクは1年生なので、当然のことながらOB会には初めての出席でし
た。上級生の話を聞くと、何やら楽しそうだなと思いました。

16:00から「そば処 二ばやし」で、ということ、時間ピッタリ
に行ったら、結局16:30頃から始まりました。

それぞれの前に数々の料理が並んでいるが、やらねばいけないこと
がいろいろあらしく、会長のあいさつやら、現役の活動報告やら会計
報告やら、様々な報告があった。最後に役員選出になると、ど
からともなく、「今年度と同じ！」という声か、場の空気を察したよう
に響き渡ると、みんな胸のあたりでパチパチと拍手した。その後、
あわてだしくカンパいすると、「いざ！」という声持って料理に目
を向けた。

料理は奥の方に割りりと面積を取ってテーブルが置かれ、その横に
寄添うようにテーブルがあり、ド真中には25cmほどのエビが
レモンと共に寝そべっていた。右側には奥から、煮もの、サシミ、松
たけ入り茶わんむし、左側には奥から、酢の物とアキモが所狭しと
並んでいた。ちなみは松たけ入り茶わんむしと、アキモは初めて口
にするものだった。

料理に夢中になっているあいだ、場はしだいに活気のあるれ出し、人の動きや話し声が室内を満ちた。ボクも一通り食で終えると、右側にトックリがお盆の上に20ほど置かれているのが目に人った。「おお！これはスゴイわい！」と思ひ、おチョコでは間に合えないのでコップに切り替えた。その後、ロボの残した料理を7まみつつ酒を飲み、ロボにもいろいろと為になる話を聞いた。ちなみにアンキモは5つ食べた。ソバは一枚しか食べず残った。場は最高潮の盛り上がりを見せていたが、「春せきりょう」を合唱し、ロボは終わった。ボクも残された料理や酒に未練を感じながらも外へ出た。やっぱりロボ会は楽しいなあと思ひつつ、フラフラと自転車で乗り帰る。二次会へ向った。

作文

単独行

神山利木

27日、小梨平に着いた時にはすでにちっとフツウでない強い風が吹いていた。2人用のダンロップテントをなるべく風のあたらないよう大木のそばに張り、早速ラジオのスイッチを入れ聴く。「大型で強い勢力を保った台風19号は……今夜半過ぎから明日の朝にかけて長野県を通過……」16時に天気図を取ると「どうしよう」と思う。もはや免れないのは確実であるが、それより天気図を取る練習をしなければ。早々と夕食を済ませ眠りにつく。夜中に何度も目が覚め、傾いたテントを見上げると「何で一人でこんなところにいるのだろう」と思ひ、それからとて無事28日の朝を迎えることができた。

10時過ぎにテント場を出て徳本峠に着いたのは12時半。大滝山荘まで行く予定を変更しその場にテントを張る。九月の後半にもなると夏山とは違つてかなり寒い。テントから顔を覗かせると空には星。夏合宿の剣を思わせり夜空であった。

翌日は快晴。なかなか明るくなるくれないので5時過ぎ、ヘッドランプをつけて出発。好意を示しているにもかかわらず"吠えまくる"口を尻目に樹林帯の中へ突入。一時間に一本のペースで休みながら行こうと思っていたが薄暗く静まり返った木々の間に一人腰を下ろす前にはあまりに淋しく落ち着かないので結局槍見台一本取っただけで山頂に着いてしまった。無人の大滝山荘は昼間見ても無気味で駆け出したくなる衝動にかられながらも何とかそれを抑えて通過。ここに泊らないで良かったとつくづく思う。そこから蝶まではずうと気持ちのいい道が続いた。秋晴れの下、まだ所々ではあるけれど紅葉の中を左手に穂高連峰を望みながら一人黙々と歩いているといろいろな事が頭に浮かんだ。ハイキング的なコースではあっても(私にとっては)思いきった「単独行」であり、それなりに得るものがあったと思う。たまたまこんな静かな山行もよい。

SAC

秋山報告書

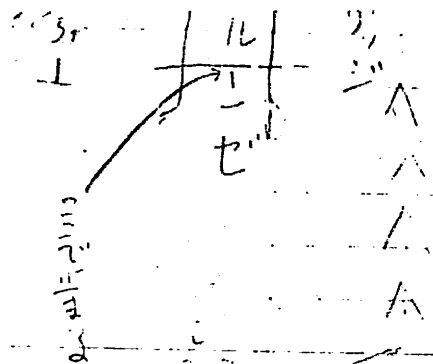
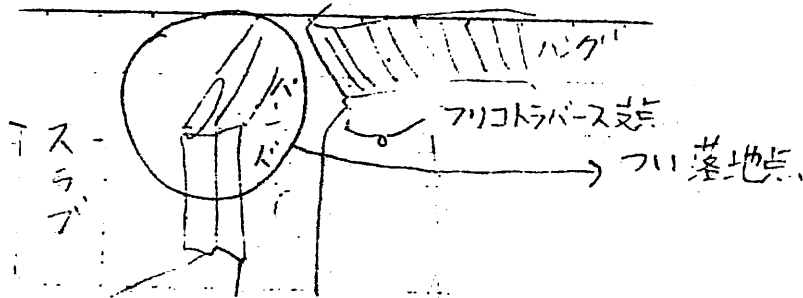
印刷・発行

長野・上田部会

1991.12.5

SHINSHU UNIV.

ALPINE CLUB



ニルセニヒコノ目 (回1)
(ルート回四ヒコノ組)

コンクリート

フイ落地点 拡大図 (回2)

